

授業科目 臨床生理学実習Ⅰ

【担当教員名】 生駒 俊和		対象学年	3	対象学科	臨床
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○			◎	
【概要・一般目標：G10】 臨床生理学Ⅰの知識を基礎に、循環器検査法について技術と心得を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 生理検査の心得を説明する。 2. 心電図計を操作する。 3. 心電図の判読の流れを説明する。 4. 負荷心電図の波形の変化と注意点を説明する。 5. 心機能検査法を説明する。 6. 心臓超音波装置を操作する。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1-4	心電図検査 1 心電図の記録と整理			1, 2	講義・実習
5-7	心電図検査 2 負荷心電図			4	講義・実習
8-12	心電図検査 3 心電図の判読			3	講義・実習
13-16	心機能検査			5	講義・実習
17-23	心臓超音波検査			6	講義・実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		臨床検査学講座 生理機能検査学 第3版	大久保 善朗 他	医歯薬出版	2010・6,930円
参考書		臨床工学講座 生体計測装置学	石原 謙	医歯薬出版	2010・4,830円・2010年3月
その他の資料		資料配布			
【評価方法】 レポート(20%)、実技試験(20%)、定期試験(60%)		【履修上の留意点】 臨床生理学Ⅰで学んだことをしっかりと認識して実習に臨むこと。知識が不足している場合は実習に参加できないことがある。積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ全てのレポートを提出することが単位修得の条件である。 参考書は生体計測装置学でレポート作成等に利用して下さい。			